

山梨中央ロータリークラブ

Rotary International District 2620
Yamanashi Chuo Rotary Club
2013-2014

会長 田中 雅承 副会長 原田 哲
幹事 樋貝 浩久 副幹事 田中 雅貴
会計 田中 直行 会報 原田 哲

事務所
〒409-3812 山梨県中央市乙黒 158-2
(山梨ビジネスパーク (株)カルク内)
TEL 055-273-5344 URL <http://yamachuo-rc.net/>
FAX 055-273-8010 E-mail rotary@yamachuo-rc.net

ロータリーを實踐し



みんなに豊かな人生を

2013～2014 RI会長 ロンD.バートン
第2620地区ガバナー 志田 洪顯
例会日・毎週金曜日 12:30～13:30
例会場・(株)カルク(055-273-5344)

Weekly Report

2014年 1月 24日 第1615回例会

本日のプログラム

会員卓話

原田 哲会員

会長挨拶

「心がける防災意識」とは

会長 田中 雅承

皆さんこんにちは、15日正月も過ぎますとお仕事に注視する頃と成り、本格的に今年目標に向かって取り組んでおいでの事と思います。

今年も異常気象に悩まされる恐れが北陸地方の大雪です。昨年1.5倍もの雪下ろしは気の遠くなる事で山梨県に住む者として想像を絶する限りです。幸い私どもの地域では大雪には見舞われたいと思いますが、自然現象から起こる災害は予測が出来ません。

県や市町村そして企業にまで「危機管理」のあり方について、講習会や資料での方法で良いのか。一度、地域の実情、企業の現場の実情を確認して訓練に取り入れなくても良いのだろうか。

「危機管理」とは最悪の事態を避ける為に、あらゆる人的、物的な資源を動かし、生命、身体、財産を守り人々の安定をもたらす事だと聞いております。

私達が自社を災害時から守る時にはどうしたら良いか、企業の責任ある立場の人は会社、従業員の行動を把握することが必要だと考えるのです。

又、トップとしての危機管理能力が問われ

ますので、大災害が起きても落ち着いて行動が出来るように、日頃から「心がける防災」につながるのです。

日常から防災体制を作って置く事によって万が一被害が出て、最小限度に軽減出来る為にも、トップの意志決定を速くし、従業員に速く伝達する事が被害を少なくする事に成るのです。

企業はどの様に具体的な行動が必要か、災害発生直後は、顧客、従業員の安全の確保と早期に自社の施設の被害を把握し、二次災害への防止への適切な対策を取ります。

企業が大・小に関わらず災害自衛組織を作り日頃の協力体制を活用し、地域と協力して被害の拡大防止に努めます。

また、飲料水、即席食料を備蓄し、災害発生時に2～3日は周囲に依存しない自立目標を必要としています。

被災後は企業内の安全を確認し、被災者へ可能な範囲で備蓄品の提供を被災者に支援が出来れば、地域への貢献にもつながります。防災意識と訓練を自覚して頂きたいと思えます。

皆さん、「災害は、忘れた頃に、やって来る」異常気象にも防災意識を・・・。

幹事報告

幹事 樋貝 浩久

1. 米山事務局より「よねやまハイライトNo. 166」が送られてきましたので回覧致します。

2. 本日の例会後「クラブ協議会」を行いますので、宜しくお願い致します。

3. 第2620地区志田ガバナー事務所より「ガバナー月信1月号」が届いておりますので配布致します。

4. 例会変更のお知らせ

☆市川大門ロータリークラブ☆

1月29日(水)の例会は「特別休会」です。

☆甲斐ロータリークラブ☆

2月3日(月)の例会は「節分例会」の為 時間・会場の変更

点 鐘：午後7時

会 場：「大木勝彦会員宅」

甲府市中央2-12-10

2月17日(月)の例会は「愛宕バラ園奉仕活動例会」の為 時間・会場の変更

点 鐘：午前10時30分

会 場：旧TDK跡地

(北バイパス「愛宕山

こどもの国入口」脇)

前回の例会記録

第1614回 出席報告

会員数	免除	出席者	欠席者	出席率	メイクアップ	前回の修正出席率
11名	0名	8名	3名	72%	2名	100%

届出欠席者 竹野 満君 鮎川 一明君
笹本 哲翁君

届出失念者 なし

出席免除者 なし

メイクアップ 笹本 哲翁君 鮎川 一明君

ビジター なし

備考 なし

ニコニコ BOX なし

「随想」 妻のために生きる(5)

塩崎 岡司先生

妻の顕著な変化を感じるようになってしたのは、倒れて三年ほどたった頃でしょうか。妻の気を紛らわすために飼っていた室内犬が、私の留守中、部屋で粗相をしたことがありました。綺麗好きな妻は思わず中腰になりながら、不自由な右手で懸命に床を拭っていたのです。「頑張ればできる」。妻はこの時、ふと何か感じるものがあったようです。何年もふさぎ込みがちだった表情に、この時から次第に明るさが戻ってきました。

暫くたったある日、妻は何年も開けていない化粧箱を持ってきました。通院日だったので口紅を付けてみたいと思ったようです。受付スタッフに「顔の表情がとってもいいですね」と褒められ、いたく上機嫌でした。

病気をして以来、人との接触を極力避けようとしてきた妻が、パジャマからお気に入りのスカートに着替え、杖を持って一人で散歩に出たり、草むしりをしたり、それまで考えられなかった行動をとるようになったことは私にとって大きな驚きであり、喜びでした。

ある日、妻は割烹着を取り出し「料理をしたい」と言い出しました。あえて知らないふりをしながら隣の部屋で見守っていたのですが、気がつくとき炊き込みご飯をつくり、それを不自由な手で俵結びにしているのではないですか。ご飯はポロポロこぼれ、味もいま一つでしたが、久々の妻の心づくしの料理を味わいながら私は涙を抑えることができませんでした。

(次回へつづく)

次回のプログラム 2月7日(金)

第2620地区高野孫左工門

直前ガバナー訪問